

## 特別研究助成 成果報告



八幡山に関するインタビュー映像の作成について  
—— 地域資源を活用したアートプロジェクトに向けて ——

The Creation of an Interview Film about Mt. Hachiman  
—— Towards an Art Project Utilizing Local Resources ——

宇野 君平

UNO Kumpei

田口真太郎

TAGUCHI Shintaro

## 八幡山に関するインタビュー映像の作成について —— 地域資源を活用したアートプロジェクトに向けて ——

The Creation of an Interview Film about Mt. Hachiman  
—— Towards an Art Project Utilizing Local Resources ——

宇野 君平  
UNO Kumpei

教授（美術領域）

田口真太郎  
TAGUCHI Shintaro

講師（未来社会デザイン共創機構）

This study focuses on Mt. Hachiman in Omihachiman, Shiga Prefecture, and aims to explore new values and attractions of the local resources through contemporary art. Eight key people were interviewed to gain historical and cultural insights and reveal the mountain's hidden stories and unique aspects. The video recordings of the interviews were compiled into a single video document for an exhibition reporting on the activities of this research. It was screened at the International Art Festival 'BIWAKO Biennale 2022' at the Observatory on Mt. Hachiman. This research provides a basis for reinterpreting the multiple meanings of Mt. Hachiman and exploring its potential in art and education.

### 1. 研究概要

本研究は、近江八幡市の八幡山を対象に、地域資源の新たな価値創造と魅力の発見を目的として実施された。令和 4 年度の調査活動では、特に八幡山の関係者へのインタビュー調査を重点的に行い、彼らが語るキーワードやエピソードをもとに、新たな八幡山の魅力を伝える映像資料の制作に取り組んだ。

八幡山は、古くから琵琶湖に隣接する信仰の山として多くの歴史遺産を有しており、豊臣秀次が築城した八幡山城跡や、その菩提を弔う村雲御所瑞龍寺門跡、さらにロープウェイや「恋人の聖地」などの観光資源が点在する里山である。しかし、これらの要素を総合的に整理した資料が少なく、その魅力が十分に活用されていない現状がある。

本研究は地域資源を活用したアートプロジェクトの実現を目指すものであるが、現代アート作品を前提とするのではなく、地域の実情を詳細に把握し、そこから得られた知見に基づいてアートプロジェクトを構築するプロセスを重視している。そこで、八幡山の地域資源としての価値を再解釈し、地域住民や訪問者に新たな視点を提供することを目的とした。特に、八幡山の歴史的背景や文化的活動に焦点を当て、インタビュー調査や資料収集を通じ

て、これまで知られていなかった地域のストーリーを掘り起こすことを目指した。

調査対象者としては、八幡山の発展や管理に関わる村雲御所瑞龍寺の関係者、八幡山ロープウェー運営者、近江八幡市役所の担当者などを中心に選定した。さらに、これらの対象者から推薦を受けた地元で文化活動に携わる人物への追加インタビューを行い、計8名のインタビュー調査を実施した。

データ収集方法は、インタビューと資料収集の2つで実施した。インタビューでは、対象者8名に八幡山の歴史や文化的価値について詳細な聞き取りを行い、音声および映像データの記録をした。また、地域に関連する歴史的資料や過去のイベント資料、写真などの視覚データを収集し、デジタル化を進めた。

映像資料の制作は、インタビュー調査で得られた8名の証言から魅力的なエピソードを軸に、八幡山の出来事や歴史を時系列に整理して一つの映像資料としてまとめた。

この映像資料は、本研究の活動報告として、2022年に開催された『国際芸術祭 BIWAKO ビエンナーレ』において、八幡山山頂の展望館を会場に上映された。



写真1 展示会場1 八幡山資料館 (BIWAKO ビエンナーレ 2022/Yuto HIRAKAKIUCHI)



写真 2 展示会場 2 八幡山資料館での展示の様子 (BIWAKO ビエンナーレ 2022/Yuto HIRAKAKIUCHI)

## 2. 調査活動について

### 2.1 インタビュー調査の内容

本研究では、八幡山の歴史的・文化的資源の再評価を目的とし、地域のキーパーソン 8 名へのインタビュー調査を実施した。調査対象者は、八幡山の歴史、文化、観光、保全活動に直接関わりを持つ方々を選定した。

表 3 インタビュー対象者情報

| 協力者            | 所属・役割           | インタビューの主な内容                                     | インタビュー実施日       | 収録時間 |
|----------------|-----------------|-------------------------------------------------|-----------------|------|
| 協力者 A          | 村雲御所瑞龍寺関係者      | 緑切り寺の歴史的背景、猫の保護活動、ビエンナーレの文化的影響                  | 2022 年 8 月 29 日 | 44 分 |
| 協力者 B          | 近江八幡観光物産協会関係者   | 昭和期の動物園の思い出、景観保護の必要性、文化資源の継承                    | 2022 年 8 月 29 日 | 48 分 |
| 協力者 C<br>協力者 D | 近江八幡市職員         | 石垣見える化プロジェクトの推進、文化財保護活動の課題と住民参加、八幡山の歴史的魅力と景観的魅力 | 2022 年 9 月 6 日  | 64 分 |
| 協力者 E          | 元近江八幡市職員        | 動物園の歴史と管理経験、公園管理の視点からの地域資源保護                    | 2022 年 9 月 6 日  | 88 分 |
| 協力者 F          | 八幡山の景観を良くする会関係者 | 石垣見える化プロジェクト、ボランティア活動の工夫と地域貢献                   | 2022 年 9 月 6 日  | 48 分 |
| 協力者 G          | 八幡山ロープウェー関係者    | 恋人の聖地指定、観光資源の変遷、ビエンナーレを通じた地域活性化                 | 2022 年 9 月 21 日 | 39 分 |
| 協力者 H          | 地元住民            | 昭和期の文化イベント、動物園の記憶と地域文化の継承                       | 2022 年 9 月 21 日 | 30 分 |

## 調査の実施方法

- 目的：八幡山の地域資源の再評価と歴史的・文化的価値の可視化
- 手法：
  - 個別対面インタビュー（各回 30 分～88 分程度）
  - 柔軟な質問構成を採用した聞き取り調査
  - 映像データとして記録

## 質問例

- 「八幡山に関わる最初の体験は？」
- 「現在の八幡山の魅力や課題についてどう感じていますか？」
- 「地域資源の活用に関して、ご自身が関わってきた取り組みは？」

## データ整理方法

- テーマ別分類：「歴史的背景」「文化活動」「観光開発」「地域保全」
- 時系列整理：各対象者の証言を基に八幡山の出来事を年代順に再構成。
- エピソード抽出：魅力的なエピソード（例：「石垣見える化プロジェクト」「動物園の思い出」）を強調。

## 調査から得られた洞察

- 八幡山の変遷：観光客層の変化と地域住民の意識の移り変わり。
- 文化的継承：「縁切り寺」としての役割や瑞龍寺の伝統的役割の再評価。
- 観光と地域資源：BIWAKO ビエンナーレや恋人の聖地などの施策の成果と課題。
- 地域保全：「石垣見える化プロジェクト」を中心とした景観保全活動と住民参加の重要性。

## 2.2 主要な発見と地域資源の新たな解釈

本研究のインタビュー調査から、八幡山の地域資源に関するいくつかの重要な発見と新たな解釈が得られた。

### ①観光資源としての変化

八幡山は、かつて地域住民の憩いの場であったが、「恋人の聖地」（NPO 法人地域活性化支援センターが 2014 年に選定）および「続 100 名城」（財団法人日本城郭協会が 2017 年に選定）の登録により、観光資源としての価値が高まっている。特に BIWAKO ビエンナーレなどの芸術イベントの開催を通じて、歴史的資源に文化的価値が加わり、観光客層が拡大している。

### ②歴史的・文化的背景の再解釈

村雲御所瑞龍寺の「縁切り寺」としての歴史的背景や、元宝塚の門跡さまの存在など、地域固有の文化資源が確認された。また、昭

和期の動物園や地域の文化活動が語られ、地域の文化的アイデンティティの形成に重要であることが示された。これらの歴史的価値の再解釈が、地域資源としての新たな可能性を示している。

### ③自然と文化財の保全活動

八幡山では、地域住民主導の「石垣見える化プロジェクト」が進行している。これは、地域の歴史的景観の維持と観光価値の向上を目的とし、文化財課と連携しながら継続的に保全活動が実施されている。地域住民の積極的な参加と協力により、文化財の保護と活用の両立が進められている。

### ④地域資源を活用した教育と未来の可能性

インタビューで得られたエピソードや歴史的背景は、映像資料として編集され、視覚的表現を通じた文化継承の新たな手法として示された。また、地域資源を教育現場で活用するため、郷土学習用の教材制作や対話型鑑賞ワークショップの実施を期待する意見も出されている。これにより、八幡山の歴史的・文化的価値を次世代に伝える取り組みが進められることが期待される。

これらの発見を通じて、八幡山の地域資源は単なる歴史的価値にとどまらず、文化・観光・教育資源として多層的な価値を持つことが確認された。

## 3. 映像資料の紹介

この映像資料は、本研究の活動報告に向けて制作したものである。映像資料の内容は、本調査で収録したインタビュー動画（約6時間）を基に、インタビュー対象者8名のコメントを全て文字起こしし、共通するキーワードや関連するエピソードを整理して7つのチャプターに分けて編集している。

映像は、インタビュー取材の様子を中心に構成し、各コメントには字幕を挿入して視覚的な補助を加えている。また、キーワードやエピソードに関連する八幡山の風景画像を適宜挿入して、合計25分36秒の動画にまとめた。

ディレクター：宇野君平、田口真太郎

撮影：片倉康輔

編集：合同会社 videocamp

表6から表12では、7つのチャプターごとに映像資料の具体的な内容を紹介する。



八幡山のこゝに対しての認識というのが

写真 4 映像資料のスクリーンショット（01 分 05 秒）より



そういう新たな発見ってのがあって

写真 5 映像資料のスクリーンショット（18 分 27 秒）より

表6 チャプター1 禁足地から市民の山へ

| in   | out  | インタビュー字幕の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 協力者   | 所属・役割         |
|------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------|
| 0:00 | 1:37 | <p>八幡山が地域のシンボルになる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後、建物が大きくなり、窓から八幡山を望める環境が一般的になるにつれて、人々の意識の中で八幡山がより身近な存在となった。</li> <li>・以前は神聖な場所として立ち入りが制限されていたが、徐々に一般の人々が立ち入れるようになり、市民に開かれた場所へと変化して、八幡山が地域に根付くきっかけとなった。</li> </ul> <p>西武グループによる観光開発と八幡山1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推測になるが、西武グループ創業者の堤康次郎氏が、安土山の開発に失敗した経験から、八幡山の観光開発も視野に入れていた。</li> </ul>                                                                                                    | 協力者 C | 近江八幡市職員       |
| 1:37 | 3:28 | <p>八幡山（別名：日牟礼山、鶴翼山）と豊臣秀次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元々、八幡山（別名：日牟礼山）にあった日牟礼山願成就寺は、豊臣秀次が城を建設する際に邪魔になったため、現在の場所に移転させられた。</li> <li>・豊臣秀次の悲劇的な最期は、八幡山（別名：鶴翼山）の鶴の首を切るような形で八幡堀を掘ったことによる祟りではないかという地元の言い伝えがある。</li> </ul> <p>西武グループによる観光開発と八幡山2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和36年か37年頃、西武グループの堤氏が八幡山の観光開発に関心を持ち、京都から瑞龍寺を誘致。その際に 近江鉄道（西武グループ）がロープウェイも建設している。</li> <li>・元々、西武グループは安土山の観光開発を計画していたが、それが実現しなかったため、代替案として八幡山での開発が行われたという説がある。</li> </ul> | 協力者 B | 近江八幡観光物産協会関係者 |
| 3:28 | 4:16 | <p>西武グループによる観光開発と八幡山3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村雲瑞龍寺が現在の場所に移転してきた際に、西武グループが八幡山周辺の開発を計画していた。</li> <li>・西武グループの計画として、安土山から八幡山、そして長命寺へと繋がるロープウェイの建設構想があった。</li> <li>・当時の西武鉄道の創業者である堤康次郎氏が、この大規模な開発計画を主導していた。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                     | 協力者 E | 元近江八幡市職員      |

表7 チャプター2 尼寺としての村雲御所瑞龍寺

| in   | out  | インタビュー字幕の概要                                                                                                                                                                                                                         | 協力者   | 所属・役割         |
|------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------|
| 4:16 | 5:14 | <p>村雲御所瑞龍寺と宝塚歌劇団の関係1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村雲御所瑞龍寺が八幡山に移築された当時、その門跡は小笠原家出身の女性で、宝塚歌劇団の桜緋紗子さんという経歴を持っていた。</li> <li>・桜緋紗子さんが門跡であったため、多くの宝塚ファンが寺を訪れた。また、訪れた女性たちの悩み相談に乗ったり、話を聞いたりするなど、相談役のような役割も果たしていた。</li> </ul> | 協力者 E | 元近江八幡市職員      |
| 5:14 | 5:48 | <p>村雲御所瑞龍寺と宝塚歌劇団の関係2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年配の方々の中には、今でも桜緋紗子さんの名前を知っている人が多く、「ここは桜緋紗子さんがいたところ」と話す人もいる。</li> <li>・寺にはお願い地蔵があり、昔は水子供養も行われていた。</li> <li>・様々な悩みを抱えた人々が寺を訪れ、門跡に相談に乗ってもらっていた。</li> </ul>             | 協力者 B | 近江八幡観光物産協会関係者 |
| 5:48 | 6:32 | <p>女性に開かれた寺へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前代の門跡が男性であったため、女性にとっては相談しにくい側面もあったが、現在は女性の門跡を迎え、再び尼寺としての機能を取り戻す方向に進んでいる。</li> <li>・今後は、女性が気軽に訪れ、相談できるような、より女性に開かれた寺へと変化していくことが期待されている。</li> </ul>                          | 協力者 A | 村雲御所瑞龍寺関係者    |

表 8 チャプター 3 観光地としての八幡山

| in   | out  | インタビュー字幕の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 協力者   | 所属・役割        |
|------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------|
| 6:32 | 7:02 | <b>八幡山を訪れる人々の変化 1</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期には、主に高齢者が訪れていた。</li> <li>・近江鉄道が八幡山を「恋人の聖地」に申請し、認定されたことで、若い世代の来訪者が増えた。</li> <li>・村雲御所瑞龍寺が八幡山の城跡を「続 100 名城に認定」に神聖し、認定されたことで、城跡に興味を持つ人々も訪れるようになった。</li> </ul>                                                                                                                               | 協力者 A | 村雲御所瑞龍寺関係者   |
| 7:02 | 8:37 | <b>八幡山を訪れる人々の変化 2</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビでクラブハリエ（たねや）のバームクーヘンが有名になったことをきっかけに、スイーツを求める若者、特にカップルが増加した。</li> <li>・2014 年に八幡山が「恋人の聖地」に認定されたことで、さらに若い世代の来訪者が増えた。</li> <li>・初期の BIWAKO ビエンナーレの開催時は、主に作品制作に関わる人々が訪れていたが、2020 年から開催地が彦根に広がり、学生や家族連れなど、より幅広い層の来場者が見られるようになった。</li> </ul>                                                  | 協力者 G | 八幡山ロープウェイ関係者 |
| 8:37 | 9:48 | <b>村雲御所瑞龍寺の開放と多様なイベント開催</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瑞龍寺で雅楽の演奏会やよし笛のコンサートが開催されるなど、文化的なイベントが活発に行われるようになった。</li> <li>・BIWAKO ビエンナーレと連携して、本堂でのコンサートや展示も開催されるなど、現代アートとのコラボレーションも行われている。</li> <li>・従来は日蓮宗の檀信徒のみが利用できる場所だったが、宗派を問わず、誰でも訪れることができるようになった。</li> <li>・先代の住職が、宗派を超えて多くの人々に開かれた寺を目指したことから、これらの取り組みによって、観光寺としての側面を持つようになった。</li> </ul> | 協力者 A | 村雲御所瑞龍寺関係者   |

表 9：チャプター 4 八幡山の猫

| in    | out   | インタビュー字幕の概要                                                                                                                                                                                                                                                               | 協力者   | 所属・役割        |
|-------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------|
| 9:48  | 10:43 | <b>八幡山で暮らす猫たち 1</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元々捨てられたり迷い込んだ猫たちを、先代の門跡をはじめ、現在の門跡も命あるものを大切に考えるを持っており、猫たちの面倒を見てきた。</li> <li>・猫の数が過剰にならないよう、動物愛護団体と連携し、避妊手術を行うなど、適切な管理によって、現在は 4～5 匹におさまっている。</li> <li>・猫たちの管理においては、近江鉄道（ロープウェイ）と連携しており、協力関係が築かれている。</li> </ul> | 協力者 A | 村雲御所瑞龍寺関係者   |
| 10:43 | 12:44 | <b>八幡山で暮らす猫たち 2</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元々、瑞龍寺にいた数匹の猫に餌を与えたことがきっかけで、猫の数が増えてしまった。</li> <li>・地域住民が猫の健康状態等を心配して、動物愛護団体に相談し、猫の去勢手術を行った。</li> <li>・瑞龍寺と近江鉄道（ロープウェイ）が協力し、猫の手術のための輸送を行った。</li> <li>・猫たちが地域で有名になり、多くの人が餌を持って訪れるようになった。</li> </ul>             | 協力者 G | 八幡山ロープウェイ関係者 |

表 10 チャプター 5 八幡山の動物園

| in    | out   | インタビュー字幕の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 協力者   | 所属・役割         |
|-------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------|
| 12:44 | 13:23 | <b>動物園の老朽化と動物たちの脱走 1</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の頃の記憶では、八幡山の公園内（現在は豊臣秀次の銅像付近）に小さな動物園があった。サルが飼育されており、サルが頻繁に檻から脱出して、公園への立ち入りが禁止になることがよくあった。当時はカブトムシやクワガタを捕まえに行く際、サルの脱走によって入園禁止となることがあったことを覚えている。</li> <li>・昭和の終わり頃には、動物愛護や衛生面の問題から、最終的に動物園は閉鎖された。</li> </ul>                              | 協力者 B | 近江八幡観光物産協会関係者 |
| 13:23 | 14:38 | <b>動物園の老朽化と動物たちの脱走 2</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の職員だった当時の記憶では、動物園の施設は老朽化が進み、修繕が繰り返されていた。</li> <li>・サルや鹿が何度か檻から脱出し、捕獲に苦労した。サルを捕獲するために、京都の動物園に協力を仰いで麻酔銃を用いたりしましたが、最終的には捕獲できなかった。</li> <li>・その他の動物として、孔雀やアヒルも飼育されていたが、孔雀は亡くなってしまったと記憶している。</li> </ul>                                       | 協力者 E | 元近江八幡市職員      |
| 14:38 | 15:45 | <b>動物園の老朽化と動物たちの脱走 3</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アヒルやサルが飼育されており、子供たちが遊べるような場所だった。子供たちは、サルに石を投げたりするなど、動物に悪戯をして楽しんでいた。動物園が閉園してからは、奥側は鬱蒼とした暗い場所であり、少し不気味に感じていた。「痴漢注意」や「薬物・シンナーダメよ」といった看板があり、治安の悪い場所というイメージを持っていた。</li> <li>・近年は、「八幡山の景観をよくする会」という市民活動による環境整備が進み、明るく清潔な場所へと生まれ変わった。</li> </ul> | 協力者 B | 近江八幡観光物産協会関係者 |

表 11 チャプター 6 八幡山の「石垣見える化プロジェクト」

| in    | out   | インタビュー字幕の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 協力者   | 所属・役割           |
|-------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------|
| 15:45 | 17:08 | <b>「石垣見える化プロジェクト」 1</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊臣秀次の屋敷跡の下にある石垣は、竹林や雑草に覆われてその存在がほとんど知られていなかった。</li> <li>・プロジェクトの発端は、毎年 9 月に石垣の手入れを行っていた「八幡山の景観をよくする会」（地域の市民団体）が、石垣の美しさをもっと多くの人に知ってもらいたいと考え、このプロジェクトに取り組んでいる。</li> <li>・現在は、石垣も綺麗に整備され、街並みや石垣が見えるようになり、八幡山の景観が大きく改善された。</li> </ul>                       | 協力者 F | 八幡山の景観を良くする会関係者 |
| 17:08 | 18:56 | <b>「石垣見える化プロジェクト」 2</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の職員として、「八幡山の景観をよくする会」の関係者と話をし、この活動が文化財保護法の観点から方に触れていないかなどを確認した。</li> <li>・この活動は、竹や雑草等を伐採して石垣を露出させただけであることを確認した上で、今後も法的に問題にならないよう見守っている。</li> <li>・石垣を露出させたことで、これまで隠されていた石垣の特徴や構造が明らかになった。その結果、市民の関心も高まり、石垣の整備を通して、市民が八幡山の歴史や文化に興味を持つようになった。</li> </ul> | 協力者 C | 近江八幡市職員         |
| 18:56 | 19:16 | <b>「石垣見える化プロジェクト」 3</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「八幡山の景観をよくする会」が、約 1 年間かけて、石垣が見えるように整備が行われ、2023 年 4 月から、整備されたエリアへの立ち入りが可能になった。</li> <li>・石垣を覆っていた草木などを除去し、石垣を露出させることで、下のほうからでも石垣が見えるようになった。</li> <li>・この取り組みによって、八幡山の歴史的な石垣がより多くの人々に知られるようになり、地域の観光資源としての価値が高まった。</li> </ul>                             | 協力者 A | 村雲御所瑞龍寺関係者      |

表 12：チャプター 7 八幡山の現状と未来

| in    | out   | インタビュー字幕の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 協力者   | 所属・役割           |
|-------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------|
| 19:16 | 19:46 | 八幡山の保全活動から 1<br>・「八幡山の景観をよくする会」による「石垣見える化プロジェクト」によって八幡山が整備されたこともあり、近江鉄道（ロープウェー）の企画で、夏の夕涼みイベントが開催され、瑞龍寺もこのイベントに協力したエピソードにふれている。                                                                                                                                                                  | 協力者 A | 村雲御所瑞龍寺関係者      |
| 19:46 | 20:59 | 八幡山の保全活動から 2<br>・八幡山は城跡でありながら、同時に自然を求める人々の憩いの場でもあることから、人工的な開発を最小限に抑え、自然と人との調和を保ちながら、美しい景観を維持したいという思いが述べられている。                                                                                                                                                                                   | 協力者 G | 八幡山ロープウェー関係者    |
| 20:59 | 22:31 | 八幡山の保全活動から 3<br>・「八幡山の景観をよくする会」の関係者は、多くの登山道が助成金や補助金を活用して、木製の階段やコンクリート製の構造物（余計な物）で整備されている現状に苦言を呈している。<br>・その理由として、人工的な構造物は、登山者のバランス感覚や自然との一体感を損なうと指摘した上で、「あるものを活かして磨く」という方針から、八幡山では自然な状態を保全し、既存の自然地形を活かして、余計なものを作らないことを提案している。                                                                   | 協力者 F | 八幡山の景観を良くする会関係者 |
| 22:31 | 23:55 | 八幡山の現状と未来<br>・近年、八幡山公園周辺でイノシシが目撃されるようになり、公園内の植生を荒らすなどの被害や、過去には、イノシシの子供（ウリ坊）が側溝にはまってしまい、市の職員に捕獲してもらったなどのエピソードが語られた。<br>・この地に暮らすものとして、八幡山公園周辺の地形や自然環境は、昔と比べて大きく変わっていない。キラキラした人工的な施設ではなく、現状の図書館や森、公園が調和した自然豊かな空間を今後も維持していきたい。                                                                      | 協力者 H | 地元住民            |
| 23:55 | 25:36 | 八幡山の魅力<br>・周囲に高い建物がなく、360 度見渡せる八幡山の眺望は、まるで天下を取ったかのような開放感を与えてくれる。<br>・現代の街並みと田園風景、そして琵琶湖が一望できる景色は、豊臣秀次公も見たであろう風景だと想像し、歴史へのロマンを感じさせる。<br>・山の端にある城跡の石垣（出丸）からの眺めはスリリングだが、同時に貴重な体験となり、美しい景色を楽しむことができる。<br>・新任職員として八幡山に登った経験は、八幡山の素晴らしい眺望に感動し、歴史に思いをはせる貴重な体験をしたことから、八幡山が、自然と歴史が融合した魅力的な場所であることを語っている。 | 協力者 D | 近江八幡市職員         |

#### 4. まとめ

本研究では、近江八幡市の八幡山を対象に、地域資源の新たな価値創造と魅力の再発見を目的として調査と分析を実施した。インタビュー調査と資料収集を通じて、地域の歴史的背景や文化的活動に関する新たな視点を得ることができた。特に、8 名の関係者から得られた証言は、八幡山の知られざる側面を明らかにし、地域資源としての潜在的価値を示す貴重なデータとなった。

また、これらのデータを基に映像資料としてまとめることができたものの、収集した写真や視覚データの活用が十分ではなく、今後の課題として改善が求められる。今後は、視覚資料の効果的な活用とともに、対話型鑑賞ワークショップの実施や、地域資源を活用した教育教材の制作など、さらに多角的なアプローチを展開していく

予定である。

本研究では、現代アート作品としての映像制作には至らなかったが、八幡山の文化や歴史を記録し、地域資源の新たな価値を見出す基盤を築くことができた。今後の展開として、これらの資料を活用した新たなアート表現や、教育・文化活動への応用を模索し、八幡山の魅力をより多くの人々に伝えるための取り組みを継続していきたい。

